

令和2年度大阪府立八尾支援学校 第1回学校運営協議会報告

□日時 令和2年7月31日(金) 午前10時～12時

□場所 大阪府立八尾支援学校 図書室

□出席者 ◆委員6名、校長、准校長、事務局10名 計18名
◆傍聴者4名(本校PTA)

□次第と協議内容(要約)

○校長あいさつ

○学校運営協議会委員及び事務局の紹介

*会長・副会長の選出

○学校運営協議会実施要項(説明)

○令和2年度学校経営計画及び教職員の体制(報告)

*学校経営計画(全校及び小・中)

めざす学校像は「子どもたちとともに『こころ』と『からだ』を育む学校」。

中期的目標として、以下の3項目を挙げている。

「1 支援教育における専門性及び指導技術の向上」・教材や教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上と平準化を図る。・電子黒板等のICT機器の活用により、新しい授業スタイルを構築する。遠隔授業を展開するスキルを身に付けていく。・教職員の参考となる支援教育専門図書をさらに充実させる。

「2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現」・コロナウィルス感染症の状況を鑑みながら、居住地校交流や学校間交流を進め、連携を向上させる。

「3 安全安心+快適に通い、楽しく過ごせる学校」・安全安心に向けた取組みが、児童生徒や教職員にとって窮屈なものにならないようにしたい。・働き方改革により、教職員が子どもに向き合う時間を増やす。

*学校経営計画(高) 中期的目標は(全校、小・中)とほぼ同じ以下の3項目。

「1」は上と同じ。

「2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現」・出口指導という意味合いではなく、小学部段階から卒業後の自立を見据えて、キャリア教育を行う。・具体的な数値目標を定めて、就労に関して目標を立てている。

「3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り」・快適な学習環境や職場環境の構築に関し、全ての教員がどれに取り組んでどこに向かい、いつまでに実現するか、各自アクションプランを立てる。

*教職員の体制

式典や行事を担ってきた行事部について、業務の見直しを行い、次年度に向けて再編を進める。

○各学部の状況（報告）

【小学部】

- ・今年度の人数 134 名。増加の一途。
- ・マスクの着用が難しい児童がいる。少しずつ集団を大きくしながら、感染に気を付けて授業を行っている。空いている特別教室はほとんどなく、短時間で集団が入れ替わって使用している。
- ・給食では、児童の側面から摂食指導をしている。教師はその間、指導に専念する為、児童が食べ終わった後や下校した後に短時間で給食を食べている。
- ・自宅待機が長く続き、登校ペースをつかめない児童がいる。
- ・長期欠席児童を含め、福祉機関やデイサービス等との連携が必要なケースも増えてきている。

【中学部】

- ・昨年度中学部卒業生の進路状況の説明。
- ・生徒は教師の想像以上に新しい学校生活に対応し、落ち着いて過ごすことができている。給食では、自分たちの身支度を整えたあと、教師の配膳準備が終わるまで、約束を守って椅子に座って待っている。
- ・設備面に不十分さはあるが、教室と教室をリモートでつなぎ、エアコンが効いた環境下で、ダンスや体操を練習して発表し合う等、感染症や熱中症に気を付けながら、各教科で工夫している。
- ・8 月末から始まる令和 3 年度入学希望者の前期教育相談では、すでに 73 名の申し込みがある。後期入学相談は 10 月開始予定。9 月～10 月には学部別の学校見学会がある。密を避けるために、中学部は体育館を会場にして例年の倍である 4 回の見学会実施を予定している。

【高等部】

- ・今年度の人数 112 名。通学区域が変わり、生徒数は横ばい。中学生の進路先が多岐に渡るようになり、次年度の人数は少し減る見込み。軽度発達障がいのある生徒数が増加し、生徒指導の対応が求められている。
- ・今年度より全学年で校内作業実習に取り組んでいる。集中して 3 日間を過ごすことができた。
- ・臨時休校の間は、パソコンを見る等して、1 人で過ごしている生徒が多かった。留守番ができる生徒はディの利用も控えていた。居場所作り、個人面談で学校と連携しながら、自宅待機の期間を乗り切ることができた。
- ・11 月の修学旅行は白浜方面で実施を予定している。コロナウィルス感染症の拡大が心配されるが、実施に向けて検討を重ねたい。

○進路状況（報告）

- ・令和元年度高等部卒業生 32 名
生活介護・・・15 名 就労継続支援 B 型・・・5 名 自立訓練・・・7 名
就労移行支援事業所・・・0 名 就労継続支援 A 型・・・1 名 一般就労・・・4 名

○本校のコロナ感染症対策について(報告)

- ・資料の説明。本マニュアルは、文科省や府教育庁が示した基準や手順をベースに、本校の実情に合わせた感染対策の内容を加筆したものとなっている。
- ・消毒用アルコールの品薄状態が続いている。1日約5ℓ消費している。アルコール消毒に代わり、可能な場合は、流水と石鹸による手洗いを行って対応している。
- ・健康観察シートや健康観察表を活用して、保健室や家庭と連携し、児童生徒の健康観察を行っている。
- ・卓上つい立て、スクイブを使ったりリモート授業の報告。
- ・現在のところ、徒歩学習は実施できていない。状況を見ながら、今後取り組んでいきたい。
- ・PTA予算(緊急対策基金)から、ゴーグル、非接触体温計、その他施設の消毒に使用する物品、熱中症対策としてペットボトル飲料水等を購入させて頂いた。
- ・感染者が出た場合を想定し、対策本部の立ち上げや動きについて検討している。保護者等からの問い合わせにどのように対応していくかが課題である。

○＜質疑応答・意見・感想等＞

Q：児童生徒がマスクを忘れて登校した場合は、どのように対応しているか。

A：国や大阪府教育庁等から寄付された紙マスクの予備を児童生徒に渡している。学校で貸与した場合についての新品の返却は不要としている。

Q：児童生徒の不調時に、休養室として教育相談室2を使用するとあるが、エアコンがない部屋だと思うが、問題はないか。

A：国の補正予算が各校300万円程度配当された。その中から、教育相談室2に使用できるスポットクーラーや、その他特別教室に設置できるエアコン等を現在、請求しているところである。エアコンが設置されている多目的室1を休養室として今は使っていることが多い。

Q：小学部、中学部の在籍児童生徒数が多い点に驚いている。八尾支援学校の特徴であると感じる。児童生徒数の増加により、校内の状態はどうなっているのか。

A：特別教室の余裕はない。就学時に、保護者の希望を尊重するようになったことが、支援学校に在籍する児童生徒数増加の背景にある。地域の小中学校と本校を十分比較し、ご判断をいただきたい。

A：支援学校の支援教育における専門性への期待は大きい。軽度発達障がいの生徒も増加し、生徒指導の対応が求められていることもあり、地域支援と校内支援の双方向を強化する必要がある。

「快適」な学校を作っていけるよう、全ての委員で協力できたらと考える。

Q：コロナウィルス感染者が出た場合、通学バスの運行をとめるのは、車内の密を防ぐためか。

A：車内が密になること、児童生徒それぞれの感染リスクの高低がその時点で明らかでないこと等が理由となる。保護者迎いの対応をとるが、児童生徒の最後の1人を引き渡すまで体制を完全に整える。

A：高等部の10名程度の自主通学生に関しては、公共交通機関を使っての通学に不安がある場合は、通学バスを使っての登下校も可能であることを本人や保護者に伝えている。

Q：今年度初めて試みる実働型避難訓練や、避難訓練で密を避けるために工夫していることがあれば、教えてほしい。

A：例年は避難後に集合して講話を行っているが、今年度は防災学習として位置づけ、各部各学年でスクイブを使って密を避けながら、災害時や緊急時の身の守り方について動画を見ること等を行っている。実働型避難訓練では、保護者にも参加して頂きながら、実際に起こった場合を想定しながら、児童生徒の引き渡しまでの流れ等を確認していく。訓練を通して新たな課題に気付く機会としたい。

意見①：「COVID-19」について、情報共有や連携体制等を共に整えていきたい。

意見②：高等部卒業生の進路状況について報告があったが、一般就労者数だけに焦点を当てた捉え方は不十分である。卒業後の人生を歩んでいくのに必要な力をつけられたかどうかという視点で、進路指導をおこなってほしい。

意見③：臨時休校中等には、放課後等ディサービス事業所に教員を派遣し、児童生徒の様子を見に行くという児童生徒支援・家庭支援の方法もある。

○学校教育自己診断

- ・学校教育自己診断の主旨を説明。
- ・保護者、生徒、教職員の意見を反映させ、学校経営計画の達成度の判断基準としている。
- ・例年通りに学校行事を行うことが難しい為、文言の訂正や見直しを関係する分掌等に依頼している。
- ・学校経営推進費事業について、今後3年間、成果検証をはかることができる文言を含むようにする。
- ・学校全体としての傾向（達成度）および各学部の傾向（達成度）も出す予定である。

○令和2年度教科用図書選定について

次回の学校運営協議会にて、今年度採用した教科用図書を見て頂く予定。現在、令和3年度の教科用図書を選定中。次回の運営協議会開催は、例年通り11月下旬を予定している。

○准校長あいさつ

○閉会